

長崎県労連代議員の鳥巢です。

私からは、第1号議案のうち「核兵器廃絶」「戦争する国づくりストップ」に関して、議案に賛成の立場から文書発言し、討論に参加します。

個人的な話で恐縮ですが、私の父は長崎の被爆者で、爆心地から2kmで被爆しました。父は公務員として60歳の定年まで勤め上げましたが、その後肝臓を患って65歳で亡くなりました。被爆したのは5歳のときです。あの「クレヨンしんちゃん」や「チョコちゃん」と同い年の時に「地上の地獄」を体験したのです。生前はほとんど被爆体験を語ることはありませんでしたし、国が長崎市内に設置した追悼平和祈念館のアーカイブにも記録がないので、父が被爆者となってどのような思いで人生を歩んで来たのか、結局分かりません。語らなかった事自体が、そのつらさを表しているのだ、と思うことにしました。

私も公務員となり、縁があって労働組合役員となり現在に至ります。就職間もない頃、職場には父も含め現役として被爆者たちが普通に働いていて、それぞれが、戦争や原爆を身をもって体験していた訳なので、職場の組合が核兵器廃絶や平和を求める方針を掲げて活動することは、空気みたいに当たり前の事でした。

いま、被爆者は最年少でも75歳、現役の労働者や政治の中枢に原爆や戦争を直接体験した人がいなくなって年月が経ち、原爆や戦争の記憶が否応なしに風化していく中、憲法前文にいうところの「戦争の惨禍」が何であるかを明らかに想像できていないお歴々が政治を握っている今、自分自身被爆二世であり、また、被爆者に身近に接してきた一人として危機感を覚えています。今こそ、わたしたちは記録を学び想像力を働かせ、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうに」奮闘しなければなりません。

被爆75周年という節目の年にもかかわらず、新型コロナウイルスの影響で原水爆禁止世界大会はオンライン開催となり、長崎市内で開催される予定であった被爆75周年記念行事の多くが中止または縮小に追い込まれていますが、創意工夫で、自分たちができることを通じて訴えていきたいと考えています。その一例として、私が今ここに発言したような、被爆・戦争体験や平和への思いを一人ひとりがSNSへ投稿し、シェアを拡げるという方法もあってよいと思います。

「戦争の惨禍」の最悪の形の 하나가、核攻撃による被害です。また、「戦争は人間がたくらむ一番の罪悪」(美輪明宏さんの指摘)です。戦争する国づくりをストップさせ、憲法が活きる社会をめざして、奮闘します。共にがんばりましょう。

以上、発言といたします。